

# 目次

## 【第二九号】

二〇二三年第三六回全国大会公開講演

シヨーパーンハウアーに拠つて考えてきたこと、考えようとしていること……………

多田光宏……………5

二〇二三年第三六回全国大会シンポジウム

「シヨーパーンハウアーと姉崎正治——姉崎正治生誕一五〇周年記念」報告……………

伊藤貴雄……………24

「ホモ・レリギオスス宗教的人間」・「アニマル・メタフュシクム形而上学的動物」としての姉崎正治……………深澤英隆……………29

——シヨーパーンハウアーとの関わりのなかで——

ケーベルのシヨーパーンハウアー研究について……………堤田泰成……………49

——姉崎正治とE・v・ハルトマンとの関わりから——

媒介者としての姉崎正治……………長尾宗典……………66

——『意志と現識としての世界』受容小史——

## 論文

無目的な「力」は合理的体系に整合し得るか……………佐藤洸紀……………84

——スピノザの「力能」とシヨーパーンハウアーの「意志」——

意志の外部、あるいは他者について……………藤永綾乃……………100  
— ショーペンハウアー責任論から見えてくるもの —

翻訳(連載)

ショーペンハウアー『初期遺稿集』(十五)……………

共訳Ⅱ西章、シユタイナー堀郁、鳥越覚生、林由貴子、堤田泰成、太田匡洋……………

116

【別巻第五号】

論文

ヘラクレイトスとショーペンハウアーは、なぜともに偉大なのか?……………

— 初期ニーチェによる哲学者像の叙述について —……………江藤信暁……………

135

ニーチェの友愛……………大久保歩……………152

— デモクラシー批判の観点から —

若きニーチェの構想する歴史的言説に内在する排除の二重構造……………

大山真樹……………168

歴史的存在としての自由精神……………谷山弘太……………185

— ニーチェ『人間的、あまりに人間的』の責任概念 —